



かがり火と牛乳パックで作った灯ろうが並び幻想的な空間に



夕方の軒先で民話の語りを楽しむ子どもたち



小学生が夏休みに作った牛乳パック灯ろう約250個が9月24日、カミガツジプラザに並べられ、幻想的な景色を多くの人が足を止めて見ていた。

9月25日・26日には商店街通りで、昭和30年代の活況あふれる商店街の雰囲気再現した「れとろーど」が開かれた。25日の夜、訪れた人たちは約1kmの通りを歩き、建物や生け花のライトアップに魅せられながら、語りや歌、紙芝居を楽しんでいた。

# 宵よいあかり

日が西に沈み、空が紺碧こんへきの色になるころ通りや広場にさすほのかな明かりが行き交う人々を、あたたかく包む。そこには笑顔がある。



ライトアップされたまちかど郷土館。通りを行きかう人々に昭和30年代の活況を感じる



通りの脇で行われた紙芝居が人気を集めていた



玄関先の土間で歌を楽しむ人々